

平成28年度 自己評価計画書

石川県立田鶴浜高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 備 考 |
|--|--|-------|---|--|--|----------------------------|------------------------|
| 1 本校の「スクールポリシー」「学力スタンダード」に基づいて、学習指導を実施し、看護師・介護福祉士に求められる学力の向上を図る。 | ① グループ学習や調べ学習、ICT機器の効果的な活用による言語活動の充実などアクティブラーニングを積極的に取り入れ、思考力、判断力、表現力の育成を図る。 | 教 務 課 | 基礎的・基本的な知識・技能は習得しているが、これらを活用して生徒自らが課題を発見し、解決する力を身に付ける必要がある。 | 【努力指標】 思考力、判断力、表現力を育成する協働学習を意図的・計画的に授業に取り入れている。 | 「先生は、ペア学習・班活動・話し合い等、協力して学ぶ機会を設けている」と評価した生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満である。 | C以下の場合、授業形態、研修内容を再検討する。 | 生徒による授業評価を7月・12月に実施する。 |
| | ② 効果的な教材（動画、画像、資料等）の提示、生徒がICT機器を使用し発表する等により、授業への興味関心を引き出し、基礎学力の定着や思考を深める。 | 教 務 課 | ICT機器の活用頻度は年々上昇している。機器使用のねらいを明確にし、生徒がより主体的に思考を深めることができるよう工夫する必要がある。 | 【満足度指標】 ICT機器を使用するねらいを明確にし、効果的に活用している。 | 「ICT機器の活用等教材・教具は工夫されている」と評価した生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満である。 | C以下の場合、指導方法の工夫、授業内容を再検討する。 | 生徒による授業評価を7月・12月に実施する。 |
| | ③ 生徒の思考を促す発問やペアやグループで思考を深める場面を適宜設定する。 | 教 務 課 | 他者の発言を傾聴する姿勢は身に付きつつある。さらに論理的・批判的思考力を育成する必要がある。 | 【努力指標】 生徒が主体的な思考をする場面を意図的に設定している。 | 「考えたり、発言する機会を授業中に設けている」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満である。 | C以下の場合、授業形態の工夫、授業内容を再検討する。 | 生徒による授業評価を7月・12月に実施する。 |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 備 考 |
|---|--|--------------|--|---|--|--|---|
| 2 専門教科指導をより充実させて、専門職に就く者としての資質の向上に努め、看護師・介護福祉士国家試験全員合格を目指す。 | ① 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。 | 衛 生 看 護 科 | 国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。 | 【成果指標】 国家試験演習の専門科目全ての偏差値40未満の生徒が0である。 | 偏差値40未満の生徒が A 0人 B 2人 C 4人 D 5人以上 である。 | B以下の場合、指導方法を再検討する。 | 看護模試(全国)を実施し、評価する。 |
| | ② 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。 | 専 攻 科 | 国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。 | 【成果指標】 国家試験演習において偏差値40未満の生徒が0である。 | 偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。 | B以下の場合、指導方法を再検討する。 | 看護模試(全国)を実施し、評価する。 |
| | ③ <1、2年生> 毎日継続して学習する習慣を身につける。 <3年生> 分野ごと的小テストや個別指導を実施し、専門知識の確実な定着を図る。 | 健 康 福 祉 科 | <1、2年生> 家庭学習の習慣化が十分にできていない。 <3年生> 国家試験演習で一定レベルに達していない生徒がいる。 | 【成果指標】 <1、2年生> 課題(毎日の自学)を提出する生徒の割合が100%である。 <3年生> 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65%以上の生徒の割合が100%である。 | <1、2年生> 課題を提出する生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。 <3年生> 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率65%以上の生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。 | <1、2年生> CまたはDの場合は、個別指導を行う。 <3年生> CまたはDの場合は、取り組み方法を検討する。 | 自学ノートの取組状況を毎日チェックし、その集計を月ごとに行う。 国家試験演習ごとに確認する。 |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 備 考 |
|--|--|---------------------|--|--|---|--|----------------------------------|
| 3 課外時間を用いた健康指導を充実させ、看護師・介護福祉士に求められる健康な心・体の育成を図る。 | ① 定期的に部長会を行うことで各部長のリーダーシップを育成する。また各部において目標を設定することで、部活動の活性化を図る。 | 生徒会 | 昨年後期のアンケートでは、部活動に積極的に参加できていない生徒(出席率50%以下の生徒)が13.5%である。 | 【成果指標】 校外実習日以外の活動日の参加状況を数値化する。 | アンケートにて、部活動に積極的に参加できた生徒の割合が A 90%以上 B 70~90%未満 C 50~70%未満 D 50%未満 | CまたはDの場合、参加率の低い生徒に対して個別面談を行い、部活動への参加を促す。 | 7月・12月にアンケートを行う。 |
| | ② 縄跳び(二重跳び)の実施により、自己記録の更新に努めながら、あきらめない態度の育成や体力の向上を図る。 | 体育科 | 個人の能力(技術・体力)の差が大きい。 | 【成果指標】 <1年生> 二重跳びが連続30回以上できる生徒の割合が <2・3年生> 前年度の自己の記録を10%以上、上回る生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | <1年生> 二重跳びが連続30回以上できる生徒の割合が <2・3年生> 前年度の自己の記録を10%以上、上回る生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。 | CまたはDの場合には、個別指導を行う。 | 記録を提示する。 |
| | ③ 立ち止まっただけの挨拶ができるよう指導する。 | 総務課 生徒会 生徒指導課 | 立ち止まっただけの挨拶ができない生徒がいる。 | 【成果指標】 立ち止まっただけの挨拶ができる。 | 保護者アンケートで「立ち止まっただけの挨拶ができている」との回答が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。 | Dの場合は、指導方法を検討し、注意喚起を促す。 | PTA総会、7月と12月の保護者懇談の3回アンケートを実施する。 |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定基準 | 備 考 |
|---|---|------------|--|---|--|-------------------------|-----------------|
| 4 本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。 | ① 体験入学、中学校訪問、個別説明会等を通して、看護師・介護福祉士の魅力と必要性を具体的に説明するとともに、本校の教育活動とその成果についての広報活動を行う。 | 総務課 教務課 | 地域の医療機関・福祉施設等への就職者は着実に増加しているが、健康福祉科への志願者数は伸び悩んでいる。 | 【成果指標】 昨年度より健康福祉科の志願者数が増加している。 | 健康福祉科の一般入試の志願者数が昨年度より A 大きく上回った。(30%以上) B 上回った。(20%以上) C 変わらなかった。 D 下回った。(10%以上) | C以下の場合、広報活動の方法の見直しをする。 | 確定倍率で評価する。 |
| | ② 出前授業や地域との交流会・講習会を通して、健康福祉科への理解を深める。 | 健康福祉科 | 小学生・中学生・それぞれの保護者・地域住民等の健康福祉科が行っている教育活動への理解が十分ではない。 | 【成果指標】 出前授業や地域との交流会・講習会を通して、健康福祉科への理解が深まる。 | 健康福祉科に対する理解が深まったという人数の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 である。 | C以下の場合、説明の内容や方法の見直しをする。 | 活動毎にアンケートを実施する。 |